

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	児玉やこ	学校名	大治町立大治南小学校
教科（科目）・領域	家庭科	対象学年（人数）	5年1・2・3組（98名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年 10月 ～ 11月（7時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方 ～環境と人権を大切にする地球市民になろう～						
2. 実践する教科・領域： 家庭科		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 物や金銭の使い方と買い物について、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫するとともに、持続可能な社会を創る地球市民として消費に関わる力を育てることができる。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	買い物の仕組みや消費者の役割について理解し、物や金銭の大切さに気付き、計画的な買い方や購入するために必要な情報の収集・整理の仕方を身に付ける。				
	②思考力、判断力、表現力等	身近な物の選び方や買い方、SDGsとの関わりについて考え、地球市民として課題を解決する力を身に付ける。				
	③学びに向かう力	家族の一員として家庭生活をよりよくし、消費者として持続可能な社会を創るために、身近な物の選び方や買い方についての課題解決に向けて、学びを深めることができる。				
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 SDGsが広がり、達成に向けて世界が動いている今、私たちは地球市民として地球のために行動することが求められている。小学生もSDGsについて理解し、自分たちができることを考えていく必要がある。そのためには、子どもたちにとって、世界の課題が遠い国の出来事となってはいけない。 家庭科の学習内容は、子どもたちの生活と直結しているものである。特に、内容「消費生活・環境」は、『衣・食・住』の全てに関わる生活の営みである。自分や家族の身近な消費生活が、どのように社会や世界とつながっているのかを知ったり気付いたりすることで、世界の課題をジブンゴトと捉え、持続可能な社会や世界を創るために考え、行動する力を育てることができると考えた。 【児童／生徒観】 本校では、学習指導要領前文にあるように「持続可能な社会の創り手」を育てるために、今年度より総合的な学習の時間や生活科を中心に、SDGsについて学び、SDGsの視点をもって学びを深める学習に力を入れている。 5年生は、新しい学びに興味をもち吸収しようと意欲的である。また、友達や教師の話を素直に受け止めることができる。昨年度、防災教育でSDGsにふれたときも、もっと知りたいという感想が多く聞かれた。家庭科の授業のオリエンテーションでは、よりよい家庭生活を学ぶことはよりよい世界を創ることであると伝え、1学期、さまざまな場面でSDGsを関連させて授業を進めたことで、自分と世界とのつながりを感じることができる児童が増えてきた。今後は、世界の課題が自分の生活と密につながっていることを理解し、課題解決のために考え行動できる児童になってほしいと願い、本単元を設定した。					

	【教材観】 本単元「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」は、小学校の家庭科の単元の中で唯一「消費生活」について学ぶ単元である。これまでに、多くの子どもたちは買い物の体験はしているものの、物やお金のやりとりを通して社会とつながっていることを意識していない。また、買う物を選ぶ基準や目的について深く考えたことはないだろう。しかし、本単元の学習を通して、さまざまな選択肢が目の前にあることを知り、自分や家族の条件に合った物を選ぶ力を身に付けさせたい。さらに、消費を通して社会や世界とつながっていることを実感させることで、自分の買い物は地球市民としての投票であることを理解させたい。 【指導観】 子どもたちにとって、消費生活は身近なことであるとはいえ、家庭の消費生活の中心は保護者である。そのため、買い物をするときに何を重視するのか、子どもたちの考えだけでなく、保護者にもアンケートをとり子どもたちの学習に巻き込んでいきたい。また、子どもたちの学びを保護者に発信することで、子どもたちとその家族とSDGs達成のために一歩を踏み出せるように進めていきたい。 本単元を貫く発問を「買い物をするときに、何を重視して品物を選ぶか？」として、授業の中でダイヤモンドランキングを用いて自分の考えを振り返らせ、自己の考えの変容を捉えさせたい。ダイヤモンドランキングの順位や項目を級友と話し合う中で、持続可能な社会を創るために必要な見方や考え方を育てていきたい。		
7. 単元計画（全7時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	自分の消費生活を振り返りながら、買い物の仕組みや消費生活の役割について考える。	・買い物をするときに、何を重視して品物を選ぶか考え、タブレットでダイヤモンドランキングを作成する。 ・保護者にアンケートをするためのダイヤモンドランキングの項目を考える。 ・「買い物（消費生活）は、〇〇である」の〇〇に当てはまる言葉を考える。その際、以下の3つの視点を示す。（①自分や家族にとって ②社会・地域にとって ③SDGsの視点で） ・買い物は契約であることを押さえる。	・近所のスーパーマーケットのチラシ
2	私たちが買う食品の多くが開発途上国とつながっていて、環境や人権の課題に大きく関わっていることを知る。	・イラストを見て、食材がどこから来たのか予想し、資料を見て実際を知る。 ・お菓子の商品表示の見方を確認し、植物油脂がパーム油であることを知る。 ・『ゾウの森とポテトチップス』を読み、自分たちの生活が森林破壊に加担していることを知る。 ・チョコレートのカカオの栽培過程において、児童労働があるかもしれないことを動画を視聴して知る。 ・パーム油や児童労働がSDGsゴール何番に関わるか考える。	JICA冊子「つながる世界と日本」織田家の1日ごはん編 絵本『ゾウの森とポテトチップス』（そうえん社） 動画「児童労働ってなに？」ACE
3 本時	私たちが買う衣類が開発途上国とつながっていて、環境や人権の課題に大きく関わっていることを知り、このような消費が続くとどうなるか考える。	・イラストを見て、普段使っている物がどのぐらい輸入に頼っているのか予想する。 ・自分の服のタグを見て、どこで作られたものか確認し、ほとんどが輸入されたものであることを知る。 ・「バングラデシュのラナプラザ崩壊事故」の写真や動画を見て、問題点は何かを考え、SDGsのゴール何番に関わるか確認する。	JICA冊子「つながる世界と日本」織田家の1日モノ編 JICA冊子「共につくる 私たちの未来」

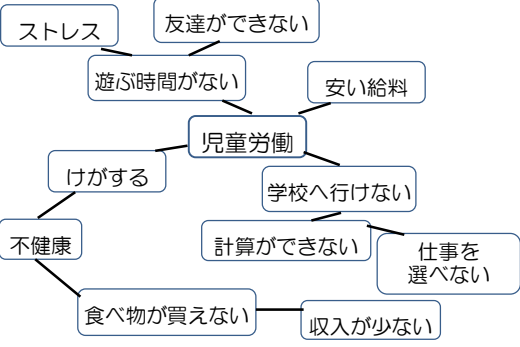
		・さまざまな問題が解決されず続いていくと、どのような世界になるか派生図を書いて考える。 ・持続可能な世界にするためには、消費生活において何に目を向けていくとよいか考える。 ・第1時のダイヤモンドランキングを見直し、項目を付け足したり、順番を入れ替えたりする。	映画『ザ・トゥルー・コスト』の予告編
4	持続可能な暮らしに関わる世界の課題について調べる。	・既習の世界の課題や保護者アンケートをもとに、調べたいテーマを選ぶ。(「食品ロス」「フードマイレージ・地産地消」「3R・ごみ」「プラスチック」「フェアトレード」「認証マーク」など) ・タブレットを用いて、自分のテーマについて詳しく調べる。 ・自分のテーマはSDGsのゴール何番に関わるか考える。	保護者アンケート 前時で作成した派生図 実物(フェアトレード商品・さまざまな認証マークが付いた商品)
5	持続可能な暮らしのために、私たちに何ができるか考える。	・前時に調べたテーマをもとに、グルーピングする。 ・持続可能な暮らしや社会・世界のために、自分ができることを消費活動を中心に考える。 ・友達と話し合ったり、タブレットで情報を集めたりする。	前時で作成した派生図 実物(フェアトレード商品・さまざまな認証マークが付いた商品)
6	持続可能な暮らしのために、周りの人に提案する方法を考え、発信する準備をする。	・4・5時に調べたり、考えたことをもとに、周りの人に提案する方法を考える。 ・発信のための準備をする。 ・学級で作ったものを発表し合う。 ※発信…家で発表・学校公開時に廊下掲示	参考になるパンフレットやポスター、動画
7	自分や家族の買い物で重視することの変容を確認し、SDGs達成のための行動宣言を発表する。	・発信した後の保護者アンケートの結果を見る。 ・学んできたことを想起して、最終のダイヤモンドランキングを作成する。 ・消費生活において、今行う行動宣言と、大人になったら行う行動宣言を考え、SDGsのゴールと合わせて発表する。	保護者アンケート

8. 本時の展開(概略)

本時のねらい：私たちが買う衣類が開発途上国とつながっていて、環境や人権の課題に大きく関わっていることを知り、このような消費が続くとどうなるか考える。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (7分)	1. 普段使っている物が、どれくらい輸入に頼っているか知る。 (1) 開発途上国からの輸入が50%以上のものを予想する。 「皆さんの身近にあるこれらの物はどれくらい開発途上国から輸入していると思いますか。50%以上だと思う物に手を挙げてください。」	・開発途上国という言葉の意味が分からない場合、簡単に説明する。	JICA冊子「つながる世界と日本」織田家の1日モノ編 

	「なぜそう思ったのですか。」 ・パソコンなどの機械関係は日本は得意そうだから ・どれも日本の会社を作っているイメージ	・挙手の様子を見て、少数派の子どもたちの考えを聞く。	
展開 (30 分)	(2) (1)で予想した物が、どれぐらい輸入に頼っているか知る。 「1 番輸入の割合が高いのは、テレビゲームで 99.6%です。(以下多い順に発表する)」 ・90%を超える物が多くて驚いた ・開発途上国にとってもお世話になっている 2. 自分たちが着ている衣服はどこで作られたものか知る。 「自分の服のタグを見てみましょう。メイドイン〇〇と書いてあると思います。」 ・メイドインバングラデシュと書いてある ・日本製はほとんど無い 3. 私たちの衣服に隠された開発途上国の現実を知る。 (1) 「バングラデシュのラナプラザ崩壊事故」の写真や映画『ザ・トゥルー・コスト』の予告編動画を見る。 「私たちの洋服の多くがバングラデシュで作られています。8 年前、バングラデシュで悲惨な事故が起きました。8 階建てのビルが崩れ落ち、死者 1130 人以上、けが人 2500 人以上、行方不明者 500 人以上の被害です。このビルには、日本でもよく目にする安さを売りにした洋服を作る工場が入っていました。ビルは安全管理がされず、多くの人が長時間働いていたそうです。」 「映画『ザ・トゥルー・コスト』の予告編動画です。トゥルー・コストとは本当の値段・価値という意味です。」 (2) 問題点について考える。 「バングラデシュの事故や『ザ・トゥルー・コスト』の動画を見て、問題だと思うことは何でしょうか。」 ・安全管理がされていない ・安く買いたい人が多くいる ・ルールを破ってでも安く売ろうとしている ・安いからといって大切にせずすぐ捨てている (3) 問題点と SDGs を結びつける。 「(2)の問題点は SDGs のゴール何番とつながっているのでしょうか。」 ・働く環境が悪いのはゴール 8 だ ・買ってもすぐごみにするのはゴール 12 だ	・子どもたちが自由につぶやけるように、楽しく温かい雰囲気を進める。 ・タグを取ってしまっていたり、見づらい所に付いていたたりする場合は体操服を見るよう指示を出す。 ・事実のみを伝えるよう留意する。 ・理解しづらい字幕については、補足説明を加える。 ・板書する際、子どもたちの似た意見を近くを書くようにし、問題点がわかりやすいようにまとめる。 ・SDGs のアイコンを問題点に貼っていく。	JICA 冊子「つながる世界と日本」織田家の 1 日モノ編  JICA 冊子「共につくる 私たちの未来」  映画『ザ・トゥルー・コスト』の予告編  予告編の内容 ・作っている人の思い「私たちの血でできている」 ・捨てられる服の山 ・消費活動に疑問をもち、お金の使い方に責任をもつことを訴えるメッセージ SDGs のゴール一覧 

	4. 食や衣服に関わる世界の課題が解決されないとどうなるか考える。 (1) 個人で考える。 「前時に出た『児童労働』『パーム油による森林破壊』、先程出た『働く環境が悪い』『ごみが増える』『安さだけを考える』という課題が解決されずに続いていったらどうなるでしょうか。グループに配られたテーマについて、自分の考えを付箋に書きましょう。」 ・けがする（児童労働） ・地球温暖化（森林破壊） ・病気になる（労働環境） ・処理が大変（ごみ） ・環境が壊される（安さだけ） (2) 付箋を持ち寄り派生図を作成する。 「それぞれの意見を持ち寄り、グループで派生図を作ります。テーマの周りに付箋を貼って、線でつなぎましょう。さらに考えたことを付け足しましょう。」 ・地球にすめなくなってしまう ・多くの人が犠牲になってしまう ・いつまでも貧困から抜け出せない (3) 派生図を見直して、課題が解決されない世界の結末を確認する。 「派生図の中で、これは最悪の結末だと思う意見を3つ選び、ドクロシールを貼りましょう。」 ・命の危険が最悪の結末だと思う ・地球での暮らしを続けられない	・前時に出たキーワードはカードにして示し、本時で出た課題は分かりやすいキーワードに置きかえる。 ・付箋に書くときには、一枚に一つ短い言葉で考えを書くよう指示する。 ・派生図の手順やルール(①話しながら②友達の考えにつなげる)を確認する。	
まとめ (8分)	(4) 各グループの派生図を見合う。 「他のグループの派生図を見てきましょう。」 ・どの課題も解決しないとイケない 5. 4の課題を解決し、持続可能な世界にするために、消費生活において何を大切にするとよいか考える。 (1) 消費生活においてどんなことを重視するとよいか考え、ダイヤモンドランキングの項目を増やす。 ・環境 ・作っている人の生活 ・児童労働 (2) 自分のダイヤモンドランキングを作成する。 ・優先順位が変わった ・環境も大切だけど安さも大事	 ・見るポイント(①テーマ②ドクロシール)を示す。 ・第1時で作成したダイヤモンドランキングの項目を明確にしておく。 ・タブレットで作成させ、変容を確認させる。	
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・身近な物の背景に潜む課題に気づき、SDGsとの関わりについて考え、地球市民として課題解決に向けて考えることができたか。（観察・派生図・ダイヤモンドランキング）			

10. 学習方法および外部との連携

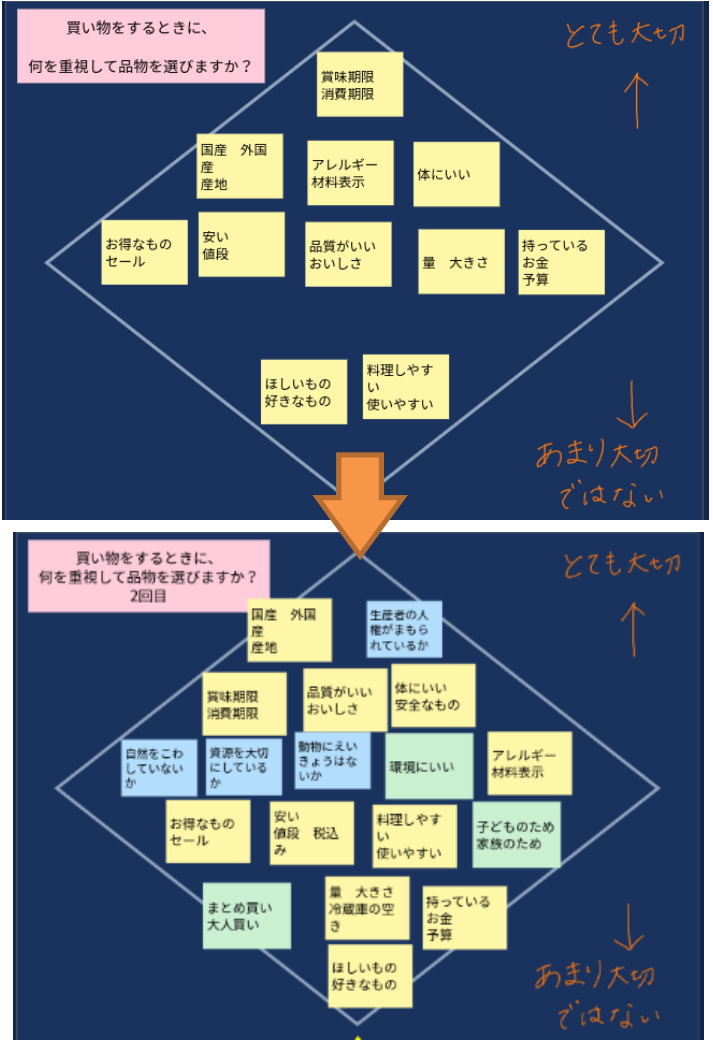
- ・保護者へのアンケートと保護者への発信の場を設けることで、子どもたちやその家族の消費生活に根差した学習となるようにした。
- ・ダイヤモンドランキングを随所で行うことで、子どもたちが自己の考えの変容に気づけるようにした。また、ダイヤモンドランキングについて、友達と意見交流する中で、人それぞれ優先順位が違うが、そこに思いや考えがあることに気づかせたい。
- ・グループで派生図を作成することで、友達の考えから自分の考えを深めたり、新しい視点を得たりすることができるようにした。また、課題をほっておくと持続不可能な世界から抜け出せないことに気づかせたかった。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・1学期に全学年において、成長段階に合わせてSDGsについて知る授業を行うこととその授業案を提案し、各担任によって実施した。
- ・国際理解教育の授業を行う際には、授業計画を全職員に配付し自由に参観できるようにしている。
- ・廊下や階段にSDGsについて掲示し、子どもたちが興味をもてるようにした。
- ・近くの学校の先生とつながりを築き、国際理解教育の情報交換をしたり、研修を行ったりしたい。

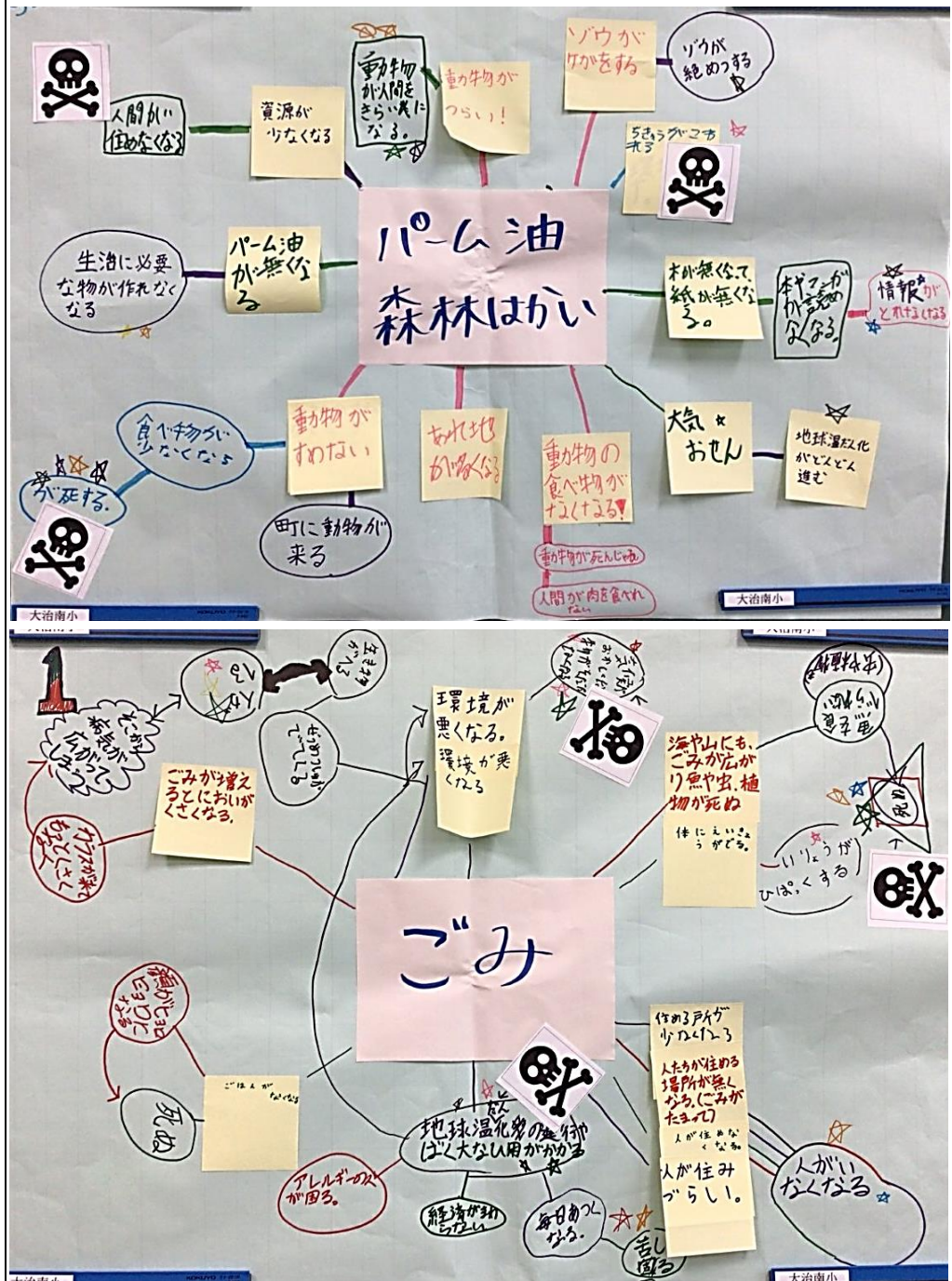
【自己評価】

12. 苦勞した点	・世界で起きていることが自分の生活とつながりがあることを児童に実感させるために、本時では自分の衣類がどこで作られたか確認したり、輸入にたよっている日用品について知ったりした。その場では、世界と自分のつながりを感じていたようだったが、小学生の子どもたちにとって消費生活の中で自分にできることを考えるのは難しく、新しい行動宣言には至らなかった。 ・子どもたちが自分の興味のあるテーマについて調べ、発信する活動では、テーマが見つからない児童や調べ方が分からない児童に対して、それまでの授業内容を振り返りながらいくつかのキーワードを示すことで支援した。 ・タブレットを活用できるように、思考ツールを用いたり、グループで協働したりするなど工夫した。
13. 改善点	・家庭科の本単元で身に付けなければならない知識や能力も押さえつつ、盛りだくさんの伝えたいこと・考えさせたいことを授業に取り入れていくには、家庭科の本単元だけでは時間的に不十分であった。世界の課題の派生図作成や課題とSDGsとをつなげる活動、発信への動機づけなど、児童にもっとじっくりと考えさせたい場面があった。総合的な学習の時間や学活、社会科など、他教科との連携を計画的に行う必要があった。 ・発信準備に時間がかかったり、新型コロナウイルス感染症のため調理実習が予定通り進まなかったりと、予定していた時期に発信ができなかった。余裕をもった計画を立てなければならない。 ・子どもたちの身近なスーパーのチラシを使って授業を行ったが、そこでどのようなエシカル商品が扱われているか調べなかったのも、私の知っているお店の商品や通信販売で買った物の紹介しかできなかった。児童のジブンゴトにこだわるとよかった。

14. 成果が出た点	・子どもたちに世界の現状を知らせる際に、JICA作成のパンフレットを用いたり、絵本や画像・動画を見せたりすることで、子どもたちの印象に残り、驚きやショックを感じさせることができ、学習活動への動機づけになった。 ・子どもたちにとって身近なお菓子の原材料表示や着ている服のタグを見る活動を導入に入れていたため、自分の生活と世界とのつながりを実感させられた。 ・世界の課題がSDGsの何番に関わるか考える活動を取り入れていたため、児童はSDGsの内容についても理解を深め、普段の会話の中でもSDGsという言葉が聞かれ、日常にあふれるSDGsに目が留まるようになった。 ・保護者にアンケート（ダイヤモンドランキング）をお願いしたことで、家庭で買い物の際重視することを子どもたちが知ることができ、家庭で消費について話をしたという児童が多かった。
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	＜児童Aのダイヤモンドランキングの変容＞ 学級全体で挙げた項目（カード）を個人で並び替えた。 黄色カード…はじめに何を重視して選ぶかと聞いたとき出てきた項目 緑カード…保護者だったら何を重視するかと問い、追加することになった項目 水色カード…本時を終えて追加した項目  ・児童Aのように水色カードを上位に配置する児童が多くいたが、具体的にイメージできていない児童や、やはり安さも大事だと変わらなかった児童もいた。 ・項目を増やしたことで、こういう価値観もあるということを知ることができた。 ＜項目の変化（本時を終えて追加した水色カード）＞ 1組…「作っている人の考え・生活」「包装がリサイクルできるか」「家にあるのに買うか」 2組…「生産者の人権が守られているか」「自然をこわしていないか」「資源を大切にしているか」「動物に影響はないか」 3組…「地球によいか」「エコマークなどの表示」「プラごみ出ないか」「食べきれぬ量か」

・追加された項目を見ると、自分の生活と世界の課題をつなげて考えられた児童がいたことが分かった。また、この追加項目が自分の調べたいテーマにつながった児童が多くいた。(例えば、動物への影響⇒動物実験反対、表示⇒持続可能なパーム油のマーク、生産者⇒フェアトレード・児童労働、食べられる量⇒食品ロスなど)

<本時の授業の成果物・派生図>



※☆マークは、他のグループの成果物をギャラリー方式で見て回ったときに、「なるほど」「新しい発見」と思ったものにしたもの。

※ドクロマークは、派生図の中で最悪の結末だと思う3つをグループで選び、貼ったもの。

他の派生図より、児童の考え

- 安さだけを求めると、働いている人への給料が少なくなり不公平であり、児童労働につながる。
- 長時間労働を強いられると、子どもの面倒を見られず、十分な食事を与えられない。
- 児童労働が続くと、学校に行けず、勉強ができないため、差別や争いがうまれる。
- ・1つの課題を派生させていくと、さまざまな課題・SDGsのゴールにつながっていることに気づいた児童が多かった。

<児童が作成したポスターやリーフレット>

なくすぞ食品ロス！

食品ロスは、年間約600万トン



食品を、大量に生産、輸入しているのに、その多くを捨ててしまっているのです。

今の現状	解決方法
日本の食品ロスの量は年間 612万トン に及びます。日本人一人あたりで計算すると、1日約132グラムの食品ロスを起こしています。  2 割 (20%)  12 割 (12%)	• 買いすぎない。 • 食べ残ししない。 • 期限間近の物を買ってすぐ使う。 • 簡単に捨てない。賞味期限切れでも食べられる。

**みんなが
幸せになる
世界**

児童労働、動物実験の悲しみ

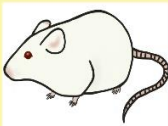





「フェアトレード」

世界的に認知されているラベルの1つ。このマークがついている商品は生産者に適正な給料を支払う。十分な給料が手に入ったら児童労働がなくなるかもしれない。





動物実験は、薬の開発や、化粧品や日用品の実験で行われます。禁止国も多いのに、日本はやっています。でも、下のマークが付いている商品は、動物実験が行われていません。実験をしないところもあるのです。




おまけ
このマークがついている商品は**森を守るパーム油**を使っています



★認証マークに注目して買い物しよう！

- ・だれかに伝えるという目的をもつことで、説得力のある分かりやすいデータを探し出し、まとめることができた。また、自分でテーマを選ぶことで、どうにか解決したい、伝えたいという強い思いを感じられた。

	<児童の感想より> ・ぼくたちの生活は、いろいろな国の人にお世話になっている。 ・世界にはたくさん問題があることがわかった。そして、それが自分とつながっていることにおどろいたけれど、地球で暮らすみんなのためにできることをやりたい。 ・買い物がSDGsとつながっていることがわかった。パーム油を使っていないものを探してみたい。 ・世界には働いている子どもがいっぱいいると知ってびっくりした。そんな子どもたちが働かずにすんで、学校にいけるように、何ができるか考えていきたい。 ・近所のスーパーにもフェアトレード商品を置いてもらいたい。よびかけたい。
16. 授業者による自由記述	本単元は、消費生活について学ぶ単元であり、子どもたちにとって身近なようで自分でどうにかなるものでもない、というのが難しいところでした。しかし、エシカル消費について少しでも興味をもったり、大人になったときに、フェアトレードやパーム油、プラスチックフリーなどが頭によぎったりしてくれることを願って授業を進めました。私自身も、エシカルな商品に今まで以上に目がいくようになり、できるところから地球に貢献しようと行動することができました。 本単元に限らず、家庭科の学習内容はSDGsに直結していて、子どもたちの生き方に関わるものだと思います。今後も、家庭科の授業や他のさまざまな教育活動の中で、グローバルな視野でものを見たり、SDGs達成を意識したりできるよう、仕掛けていくことで、子どもたちが変わり、家庭が変わり、地域、日本、世界がよりよくなっていく種まきに努めます。

参考資料

- ・『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン—探究的で深い学びを暮らしの場からつくる』
編者：荒井紀子他 発行所：教育図書株式会社 2020年
- ・『授業の腕が上がる新法則シリーズ 「家庭科」授業の腕が上がる新法則』
監修：谷和樹 編集：白石和子他 発行所：株式会社 学芸みらい社 2020年
- ・『共につくる 私たちの未来 SDGsから「持続可能な社会の創り手」への一歩を』
独立行政法人 国際協力機構 JICA地球ひろば 発行
- ・『つながる 世界と日本 ホントは身近な途上国と私たちの暮らし』
独立行政法人 国際協力機構 発行
- ・『ゾウの森とポテトチップス』
写真・文：横塚真己人 発行所：株式会社そうえん社 2012年
- ・映画『ザ・トゥルー・コスト』予告編動画
<https://www.youtube.com/watch?v=f4DtV61AT-g>
- ・『児童労働ってなあに？』 ACE
<https://www.youtube.com/watch?v=MJ4a5IrI-vA>

資料 1

開発途上国からの輸入が50%以上のものはどれ？

私たちの身の回りにある、輸入されているモノの中で、開発途上国からの輸入の割合が高いモノを上から順に並べかえてみよう。



資料 2

